

科目番号	教室	登録人数	履修登録方法
CEDCE13510	[木2]文講205	5	調整期間登録
開講年度	期間	曜日時限	開講学部等
2025	前学期	木2	地域共創研究科地域共創専攻
講義コード	科目名[英文名]	単位数	
C00435001	島嶼文化資源論A	2	
担当教員[ローマ字表記]			
波多野 想			

授業の形態

講義、演習又は実験

アクティブラーニング

学生が議論する、学生が自身の考えを発表する、学生が文献や資料を調べる

授業内容と方法

文化と開発の関係は、古くて新しい課題である。2011年11月28日から12月1日にかけて開催されたイコモス（ICOMOS, International Council on Monuments and Sites）総会で採択された「パリ宣言」においては、開発の推進力としての文化および自然の遺産に焦点が当てられた。同宣言にも示されているように、文化遺産は、単に保護するだけでなく、利活用を進めることで、遺産の経済的、社会的、文化的価値が地域住民や訪問者の利益に供する必要がある。

ここで重要となる概念が「文化資源（cultural resources）」である。「文化資源」は、有形無形（モノやコト）の文化的事物を、現代社会において利活用する「資源」とみなす考え方である。大別して経済的価値と文化的価値を有する文化資源という考え方で文化財を捉え直すことで、モノやコト（あるいは地域全体）の動態性、さらには文化そのものの動態性が担保され、その動態論的地域マネジメントの方法は観光という地域開発の手法にも道を開くことになる。そこで、本科目は、文化資源の基礎概念や活用方法を学び、さらに沖縄における観光開発と文化の関わりについて考える前提の獲得を目標に講義を進める。

URGCC学習教育目標

自律性、地域・国際性、情報リテラシー、問題解決力、専門性

達成目標

- （１）文化資源および文化観光資源の基礎的な考え方を身につける。〔自律性〕〔専門性〕〔情報リテラシー〕
- （２）グループワークを通して、島嶼の文化資源を分析でき、かつその活用方法について現実的な提案ができる。〔地域・国際性〕〔問題解決力〕

評価基準と評価方法

ディスカッションへの参加と内容（30％）、プロジェクトワークの内容（30％）、期末レポート（40％）を点数化して評価する。なお、欠席日数が授業時間数の3分の1以上になった者には単位を与えない。

履修条件

特になし。

授業計画

第一週	イントロダクション
パート1	文化を「資源」として捉える
第二週	文化遺産と文化資源
第三週	文化の「価値」
第四週	文化が資源化するプロセス
第五週	システムとしての文化資源
第六週	プロジェクトワーク「沖縄の文化資源について考える」
パート2	資源としての文化的景観、あるいは景観概念による文化の資源化

- 第七週 文化的景観という考え方
- 第八週 文化的景観の秩序を読む
- 第九週 プロジェクトワーク「沖縄の文化資源と景観」
- パート3 文化資源の活用
- 第十週 文化資源の社会的運用
- 第十一週 産業遺産を活用したまちづくり
- 第十二週 知識システムを活用した文化資源のマネジメント
- 第十三週 プロジェクトワーク「沖縄の文化資源を活用する」
- パート4 文化資源の観光利用
- 第十四週 プレゼンテーション「沖縄の文化資源を活用する」
- 第十五週 文化資源の活用とツーリズム

■ 事前学習

毎回配布された資料を反復的に読み込み、理解すること。不明な点は、必ず担当教員に質問すること。

■ 事後学習

授業で使用したテキストを、授業時にノートを参考に再度読み込み、理解を深める必要があります。
特に、理論面での理解が重要となります。理解が足りない部分については、必ず担当教員に訊いてください。

■ 教科書にかかわる情報

教科書	書名					ISBN		備考	特になし
	著者名								
	出版社		出版年		NCID				

■ 教科書全体備考

適宜紹介します。

■ 参考書にかかわる情報

参考書	書名					ISBN		備考	適宜紹介します。
	著者名								
	出版社		出版年		NCID				

■ 参考書全体備考

授業中に適宜紹介。

■ 使用言語

日本語

■ メッセージ

■ オフィスアワー

原則として火曜の午後を設定しますが、それ以外の曜日でも随時受け付けますので、教員が不在の場合はE-mailで予約を取って下さい。研究室は、文系研究棟303号室です。

■ メールアドレス

この項目は教務情報システムにログイン後、表示されます。

